

2020年産「アルプス米」てんたかく81・てんこもり栽培こよみ (JA米)

NEW てんたかく81

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

「てんたかく」と比べて、
●出穂期、成熟期が2~3日早い ●耐倒伏性が同程度に優れる
●粒厚が厚く、屑米が少ない ●品質、食味が同程度に優れる

収量構成の目安

収量構成	目安	収量構成	目安	収量構成	目安
m ² 当たり穂数(本)	500	m ² 当たり籾数(粒)	30,000	玄米千粒重(g)	23.5
一穂籾数(粒)	60	登熟歩合(%)	85		

作業日程の目安

管理のポイント

- 土づくり**
 - 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。
 - 土づくり資材や堆肥を施用する。
- 適正な乾燥調製**
 - 1.9mmのふるい目を使用し、選別を徹底する。
 - 水分14.5~15.0%に仕上げる。
- 適期収穫**
 - 籾黄化率85~90%頃に刈り取る。
 - (高温年は80%から)
 - フェーン時はあらかじめ入水する。
- 収穫までの水管理**
 - 刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水を行う。
- 防除の徹底**
 - 生育ステージに合わせて防除を実施する。
 - 3回目は傾穂期
 - 2回目は穂揃期
 - 1回目は出穂後20日間の湛水管理(必須)
- 草刈りの徹底**
 - 7月上旬までに畦畔や雑草の草刈りを終える。
 - 葉色が淡い場合は、出穂前に追加施肥を施用する。
 - 2回目施肥は1回目施肥から10日後を目安に施用する。
 - 1回目施肥は幼穂長1.2mmと葉色を確認してから施用する。
- 中干し後は幼穂形成期まで間断かん水**
 - 中干しは強すぎないように注意する。
 - 田植後1か月までに開始する。
 - 5mに1本を目安に溝を掘る。
- 溝掘りは確実に**
 - 活着後は、浅水管理をする。
 - 溝掘り深さは3cm。
 - 植付本数は株当たり3~4本。
 - 栽植密度は坪当たり70株を確保する。
 - 苗箱施薬による防除を実施する。
 - 基肥は基準量を守る。
- 田植え**
 - 搬出直後から換気の徹底。
 - 田植時期に応じた計画的な育苗を行う。
- 健苗育成**
 - 代かきは、均等に努め、練りすぎに注意する。
 - ゆっくりと耕起し、作土を15cm以上確保する。
- 耕起・代かき**
 - 確実に施用する。
 - 秋施用ができなかった場合は、土づくり資材を

適期の中干し開始・適度な中干し実施

○田植後1か月(8葉期頃)は、最も根が伸びる時です。この時期に中干しをすることで、根の伸長を促進します。

○中干しの効果を高めるため、中干し前には溝掘りを確実に実施しましょう。

適正な中干し

- 葉が直立し、茎が太い
- 根量が多い

中干し未実施

- 下葉が枯れる
- 茎が細い
- 根量が少ない

中干しの有無による稲の姿 乗用管理機での溝掘り

除草剤散布は遅れずに

雑草防除体系 ●5cm程度の水深を確認する。 ●除草剤散布後7日間は落水やけし流しをしない。

田植後日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30				
雑草の発生が多い圃場	ピラクロン1キログラム剤 1kg/10a (田植後5日)		マージェット1キログラム剤 1kg/10a (田植後3~5日)		エンペラー1キログラム剤 1kg/10a (田植後20~30日)		アピログロウMX1キログラム剤 1kg/10a (田植後25日)		ガンガン豆つば 250g/10a (田植後25日)		ウイナー1キログラム剤 1kg/10a (田植後25日)		ウイナージャンボ 500g/10a (田植後25日)		サラブレッドRXフロアブル 500ml/10a (田植後25日)		エンペラー1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)		アピログロウMX1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)		ガンガン豆つば 250g/10a (田植後15日)		ウイナー1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)		ウイナージャンボ 500g/10a (田植後15日)		サラブレッドRXフロアブル 500ml/10a (田植後15日)		ピラクロン1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)		マージェット1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)		エンペラー1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)	
雑草の発生が少ない圃場	ピラクロン1キログラム剤 1kg/10a (田植後5日)		マージェット1キログラム剤 1kg/10a (田植後3~5日)		エンペラー1キログラム剤 1kg/10a (田植後20~30日)		アピログロウMX1キログラム剤 1kg/10a (田植後25日)		ガンガン豆つば 250g/10a (田植後25日)		ウイナー1キログラム剤 1kg/10a (田植後25日)		ウイナージャンボ 500g/10a (田植後25日)		サラブレッドRXフロアブル 500ml/10a (田植後25日)		エンペラー1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)		アピログロウMX1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)		ガンガン豆つば 250g/10a (田植後15日)		ウイナー1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)		ウイナージャンボ 500g/10a (田植後15日)		サラブレッドRXフロアブル 500ml/10a (田植後15日)		ピラクロン1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)		マージェット1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)		エンペラー1キログラム剤 1kg/10a (田植後15日)	

①代かきから田植えまでの日数を長くしすぎない。
②軟弱苗の使用や極端な浅植えを避け、適切な水管理を行う。
③薬害軽減のため、初期除草剤マージェット1キログラム剤は移後3日以降の使用とする。
●田植同時除草剤は、薬害を受けやすいことから、上記①を守り田植後の入水をゆるやかに。

防除の徹底で被害を防止!!

○基本防除を適期に行い、防除間隔は7日間を目安とする(10日以上あけない)。

○畦畔等のイネ科雑草の穂が出る前までに草刈りを行う。

○麦と等の不作付地は、大豆、園芸作物、緑肥等の栽培を行う。

病害虫防除体系
【育苗基本防除】 ●苗箱施薬時は、規定の薬量(50g/箱)を守り、箱全体に均等に散布する。

薬剤名	散布量	使用時期	対象害虫
ルーチンアドスピノ箱剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移後当日	葉いもち、白葉枯病、イネミズウムシ、イネドロオシムシ、ニカメイチュウ、フタオビコバヤ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ
Dr.オリゼフェルテラ剤	50g/箱	緑化期~移後当日	葉いもち、イネミズウムシ、イネドロオシムシ、ニカメイチュウ、フタオビコバヤ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ(白葉枯病)
エパーゴルワイド箱剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移後当日	葉いもち、白葉枯病、紋枯病、イネミズウムシ、イネドロオシムシ、ニカメイチュウ、フタオビコバヤ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ

※紋枯病の発生地の場合
エパーゴルワイド箱剤 50g/箱 播種時(覆土前)~移後当日 葉いもち、白葉枯病、紋枯病、イネミズウムシ、イネドロオシムシ、ニカメイチュウ、フタオビコバヤ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ

※対象害虫の()内は移後3日前~移後当日のみ登録あり

てんたかく81 【本田基本防除】 <粉剤、液剤体系>

防除時期	出穂前	穂揃期	傾穂期
粉剤	バリダジョーカー粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラフサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	バリダシンド液剤 5,000倍 (収穫14日前まで)	ラフサイドフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで)	スタークル液剤 10,000倍 (収穫7日前まで)
対象害虫	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、紋枯病等	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

てんこもり 【本田基本防除】 <粉剤、液剤体系>

防除時期	随時防除	基本防除	傾穂期
粉剤	バリダジョーカー粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラフサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	バリダシンド液剤 5,000倍 (収穫14日前まで)	ラフサイドフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで)	スタークル液剤 10,000倍 (収穫7日前まで)
対象害虫	紋枯病	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、紋枯病	いもち病、カメムシ類、ウンカ類

● 積極的に利用しましょう!
● 高品位・低コスト生産にカントリーエレベーターを

土壌に応じた適正な施肥量

てんたかく81 施肥基準 (5/5植え) ※側条施肥の場合

土壌区分	肥料名	基肥 (kg/10a)	分施肥 (kg/10a)	追肥 (kg/10a)	合計 (kg/10a)
砂壤土	LPs	40	35	10	85
	早生専用	35	30	10	75
半畑田	LPs	40	35	10	85
	早生専用	35	30	10	75
粘質土	LPs	30	25	10	65
	早生専用	25	20	10	55

てんこもり 施肥基準 (5/10植え) ※側条施肥の場合

土壌区分	肥料名	基肥 (kg/10a)	分施肥 (kg/10a)	追肥 (kg/10a)	合計 (kg/10a)
砂壤土	LPs	45	40	13	98
	早生専用	40	35	13	88
半畑田	LPs	40	35	13	88
	早生専用	35	30	13	78
粘質土	LPs	35	30	13	78
	早生専用	30	25	13	68

生育量を確保するために、基肥量はしっかりと施用する。

てんこもり

作業日程の目安

管理のポイント

- 土づくり**
 - 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。
 - 土づくり資材や堆肥を施用する。
- 適正な乾燥調製**
 - 1.9mmのふるい目を使用し、選別を徹底する。
 - 水分14.5~15.0%に仕上げる。
- 適期収穫**
 - 籾黄化率85~90%頃に刈り取る。
 - フェーン時はあらかじめ入水する。
- 収穫までの水管理**
 - 刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水を行う。
- 防除の徹底**
 - 生育ステージに合わせて防除を実施する。
 - 2回目は傾穂期
 - 1回目は穂揃期
 - 出穂後20日間の湛水管理
- 草刈りの徹底**
 - 7月上旬までに畦畔や雑草の草刈りを終える。
 - 葉色が淡い場合は、出穂前に追加施肥を施用する。
 - 2回目施肥は1回目施肥から10日後を目安に施用する。
 - 1回目施肥は幼穂長1.2mmと葉色を確認してから施用する。
- 中干し後は幼穂形成期まで間断かん水**
 - 中干しは強すぎないように注意する。
 - 田植後1か月までに開始する。
 - 5mに1本を目安に溝を掘る。
- 溝掘りは確実に**
 - 活着後は、浅水管理をする。
 - 溝掘り深さは3cm。
 - 植付本数は株当たり3~4本。
 - 栽植密度は原則坪当たり60~70株を確保する。
 - 苗箱施薬による防除を実施する。
 - 基肥は基準量を守る。
- 田植え**
 - 搬出直後から換気の徹底。
 - 田植時期に応じた計画的な育苗を行う。
- 健苗育成**
 - 代かきは、均等に努め、練りすぎに注意する。
 - ゆっくりと耕起し、作土を15cm以上確保する。
- 耕起・代かき**
 - 確実に施用する。
 - 秋施用ができなかった場合は、土づくり資材を